



12/17 3年生が4回目の道コン その結果についての解説 12/23 から冬期講座がスタートしました

冬期講座の様子 中1、2年生は3時間、中3生は4時間 復習と受験に向けての勉強です



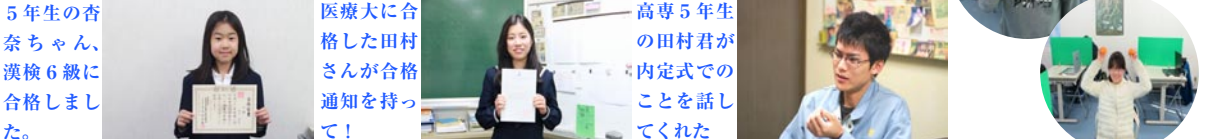
冬期講座居残り学習、朝9時から6時まで9時間の人も 12/29 授業が終わった後掃除



毎年、生徒が掃除を手伝ってくれます 最終日も塾に来た高2 寝ちゃダメだよ!



沢山の方から差し入れを頂きました。 本当にありがとうございます。 高専5年生の田村君が内定式でのことを話してくれた



5年生の香奈ちゃん、漢検6級に合格しました。 医療大に合格した田村さんが合格通知を持って！ 高専5年生の田村君が内定式でのことを話してくれた



21期生の群馬県立女子大2年の増山さん、ゼミのための課題を制作 8期生で北病院の作業療法士の佐々木君、会社を休んで仕事！ 7期生の渋谷君、久しぶりの塾で冬期講座の内容に興味を。 4期生のJAFに勤務する内藤君、今日は二人目の子供も連れて。

★2017年がスタート

毎年、年の始めに今年はどうしようとか、ああしたいとか目標を立てますが、一年が終わってみるとなかなかうまくいかないことが多いと思います。しかし、中3生、高3生の受験生にとっては、失敗は出来ないというプレッシャーや不安があります。3月7日の高校入試、1月14、15日のセンター試験や二次試験までもう少しですが、今までやってきたこと、これから出来ることに全力を尽くして取り組んでほしいと思います。学力はあらゆる入試や資格試験や就職試験など様々なハードルを超えるために必要なものです。ところが、社会に出て必要なのは、学力以上に入力です。コミュニケーション能力、責任感、正義感、そして知性や教養です。不平等で理不尽な格差社会で生きていくのは大変

なことでありますが、当たり前のことを当たり前に出来る事でも乗り越えられると思います。しっかり挨拶をする、決められた時間を守る、忘れ物をしない、規則を守る、そして前向きに努力する、そんなに難しいことではありません。15の春、18の春は、人生においてとても重要な意味を持つ春です。楽な道を選ばずに、失敗を恐れず、自信をもって前向きに進むことが、必ずその先の人生につながります。塾の行き帰りにちゃんと挨拶しない生徒、課題をちゃんとやらない生徒、集中力のない生徒、いつも寝ている生徒、時間や費用、父母の負担が無駄になります。悔いを残さないように取り組みましょう。これから本格的なインフルエンザの時期です。まだ道路も凍結しています。寝不足も続くと思います。がんばりましょう。

「高専生の田村君と高専卒の渋谷君のこと」
昨年4月に株式会社キッツに就職が決まっていた高専機械工学科5年生の田村君が、内定式の社長の話で求人に対するエントリーが1300人以上以上で採用されたのは23人、倍率が50倍以上だったこと、しかも高専生は釧路高専と長野高専のたった二人だけ。この会社では面接だけで学科試験は行なわれていません。このことから人物評価で決めたことになりました。一方、7期生で高専機械工学科卒業の渋谷君(34)は従業員14500人の株式会社リクシルの茨城県工場の勤務していましたが、2ヶ月程前に、一般の組合員から副書記長という組合の専従になったというのです。

以前から、会社と組合の両方から就任を要請されている、固く固辞してきたのだそうですが、とうとう受け入れることになってしまったそうです。工場の生産効率化や新入社員研修などの実績が評価されたことらしいです。15000人近くの企業ではありえないことなのですが。退職も考えましたが、ずっと技術職だったので、社会では通用しないだろうと、とりえずは組合の仕事しながら、いろいろなことを勉強したいと言っていました。一般的に大手企業の組合役員は会社の出世コースなのですが、自分で塾をやることも考えていると。ちなみに年収は600万以上だだそうです。

在籍する生徒の所属校
小学校 愛国・鳥取西・朝陽附属 富原
中学校 美原・共栄・景雲・鳥取西 阿寒 附属 北富原・遠矢
高校 湖陵・江南・北陽・武修館

31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1												
火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日												
		休							休							休										冬					年											
																●冬期講座最終日(中3)						●冬期講座						■中1・中2道コン(小・中3休み)			■中3道コン(小・中1、2休み)						■年末年始休み					
																						●冬期講座						●冬期講座			●冬期講座											
																						●冬期講座						●冬期講座			●冬期講座											
																						●冬期講座						●冬期講座			●冬期講座											
																						●冬期講座						●冬期講座			●冬期講座											

1月の予定

『裕福さ、受験には不利かも』

脳科学者・中野信子さん 聞き手・神崎ちひろ

脳科学の視点で、人の行動や心理を読み解き、テレビ番組でも活躍する中野信子さん。東京大学理科二類に現役合格した自身の経験も踏まえ、貧しさや、あがり症であることは、受験に不利とも限らないといいます。

■中学で「学歴つけよう」

中学時代は周囲の人とのコミュニケーションがうまくとれず、将来、就職して社会人としてやっていく自信がありませんでした。その頃から、一般社会に出なくてすむよう大学の研究室に残るため、学歴をつけようと思うようになりました。理系を選んだのは、一般の人の振る舞いを知って合わせるためにも、人間の研究をしたいと考えたからです。

家は貧しく、小さい時は映画館に行っても、妹と私は見られるけれど、母はチケットを買えないほどでした。その分、受験に向けた時期は他に気が散ることもなく、勉強に集中できました。理科や英語を勉強しながら気づくと午前3時という日もありました。集中するとサイレンに気づかないようなこともあって、母は心配していたようです。

勉強法は、ダメなところを見つけてつぶすというもの。予備校は模試や夏季講習だけ受講して、短期で集中して必要な情報を得るようにしていました。やはり商売だけあって、試験結果から出された、どの分野の勉強が足りないかといった自分の学力分析は詳細で役立ちました。学校も優れている先生について行けば、そのレベルまで行ける。化学の先生が作った過去問を集めた演習プリントなどは、それをやるだけで十分な実力がつきました。

受けたのは東大だけ。学費が安く、下宿の必要もない、いいとされる先生が集まっているというコストパフォーマンスで選びましたが、大学に入ってからには本当に幸せでした。自分以上に変わった人もいて、変であることが許される。楽園でした。

大学では、脳の反応を数分・数秒レベルで見えるための装置を作ろうと工学部に進みました。でも、それができるファンクショナルMRIという方法が実用化され、「それなら、私はもういいか」と、大学院を受け直しました。医学部に移って神経系、博士課程から認知科学を勉強しました。

■「勉強そのものを楽しんで」

いま多くの受験生には周りに楽しいことがたくさんある。ある程度裕福でもあるとすれば、受験勉強に集中するという意味では不利かもしれません。でも集中しなきゃと思ってもしょうがない。意思と感情が矛盾する場合、人は感情を優先してしまいます。他のことをやりたいと思っていれば、勉強には集中できません。勉強そのものを楽しむのが一番です。

楽しむことは、成果にもつながります。ある実験では、同じ問題を解くのに、片方のグループには早さに応じた金銭的報酬を与え、もう一方にはただ時間を計ることを伝えたところ、後者のグループの方が問題解決が早くなりました。金銭的報酬と自分が達成して喜びを感じるのは脳の同じ領域が担当しています。お金をもらうことによって、達成する喜びが相殺されてしまう。

教育格差が言われますが、同程度の遺伝的素因があるならば、裕福でない方がモチベーションは上がるというのは実感としてもあります。

■緊張も悪くない

試験当日、緊張しやすい人も、それで焦る必要はありません。心拍や血圧が上がると、落ち着かないものの、ひらめきの問題などではパフォーマンスは上がります。そう考えて、冷静になり、自分をうまくコントロールできるといいですね。

◇なかの・のぶこ 脳科学者。1975年生まれ。東京大学工学部を卒業し、同大学院医学系研究科で医学博士号取得。フランス国立研究所で研究員。帰国後、横浜市立大学客員准教授などを経て、2015年から東日本国際大学特任教授。

朝日新聞 DIGITAL 2016年12月20日

■疲弊したアメリカ国民が喝采、支持

トランプの主張は、ハッキリしている。一言でいえば、「排外主義」だが、それは「反グローバリズム」である。

外務省OBの天木直人氏（元レバノン大使）がこう言う。「もともとグローバリズムは、“勝ち組”の政策です。格差が広がり、希望を持たな



い人を増やしてしまう。アメリカ国民も疲弊してしまった。一握りの富裕層だけが富み、中産階級が崩壊しつつあります。だから、以前から大衆の不満が充満していた。トランプはその不満を上手にすくい上げた形です。トランプが『中国が雇用を奪っている』『雇用を奪うTPPを止める』と自由貿易を批判すると、聴衆は拍手喝采し、熱狂した。これは“サンダース現象”にも通じる話です。ヒラリーと大統領候補の座を争ったサンダースも、新自由主義を否定し、TPPを『破滅的な協定だ』と批判して支持を集めた。アメリカ大統領選を通じて分かったのは、行き過ぎた新自由主義とグローバリズムが限界に達しつつあるということです。今後アメリカは、大きな転換を迫られると思う。熱心なTPP推進派だったヒラリーが、国民の強い反発を目の当たりにして『今も反対、選挙後も反対、大統領になっても反対』とTPP反対に宗旨変えたことが、この先のアメリカを物語っています」

実際、新自由主義とグローバリズムによって、アメリカ国民の生活はボロボロになっている。安い労働力を求めて企業が海外に進出したために雇用は減り、その一方、安い商品が海外から流入し、アメリカ製は競争力を失ってしまった。グローバリズムに対するアメリカ国民の怒りと絶望が、トランプを押し上げたのである。大統領選で敗北したのは、新自由主義とグローバリズムだったのではないか。

TPPに参加したら日本経済は崩壊

グローバリズムへの「反動」は、アメリカだけの現象ではない。世界各国で「保護主義」の動きが強まっている。自由貿易を進めたはいいが、どの国もヘトヘトになっているからだ。

なのに安倍首相は、TPPを筆頭に新自由主義を推し進めようとしているのだから、時代錯誤もいいところだ。もしTPPに参加したら、日本は決定的な打撃を受けてしまうだろう。筑波大名誉教授の小林弥六氏（経済学）がこう言う。

「例外なき関税撤廃、自由貿易が大前提のTPPに参加したら、日本の産業と雇用が破壊されるのは必至です。たとえば、日本が強い自動車産業だって、とても全メーカーが生き残れるとは思えない。まず農業、林業、漁業は、安い外国産に太刀打ちできないでしょう。第1次産業が壊滅したら、地方経済は成り立たなくなる。今でもシャッター通りだらけなのに、地方は活気を失い、本当に死んでしまう。新自由主義とグローバリズムの本質は、一般国民を犠牲にしてグローバル企業を儲けさせることです。世界的な大企業は潤うが、大衆には恩恵がない。だからアメリカも、産業界はTPPに賛成し、多くの国民が反対している。それでも安倍首相はTPP参加を強行しようとしているのだから、どうかしています。百歩譲って、もしメード・イン・ジャパンが世界市場を席巻している時だったら、TPPに参加するメリットがあったかもしれませんが、国際競争力が低下している今、参加するのは狂気の沙汰です。日本の富と市場を、アメリカのグローバル企業に奪われるのには目に見えています」

■グローバリズムをやめ、日本型を探せ

いずれ世界各国に、「グローバリズム」を見直す動きが広がっていくはずだ。「保護主義」の動きが強まってくるのは間違いない。日本も大急ぎで、行き過ぎたグローバリズムと一線を画すべきだ。

このままグローバルな競争に突入しても、過激なコスト競争に巻き込まれ、デフレ不況を悪化させるだけである。アベノミクスが「異次元の金融緩和」を実施し、経済対策に何十兆円もの税金をつぎ込んでも物価が上昇しないのは、過度なグローバル競争によって、国内にデフレ圧力がかかっているからである。

そもそも、日本のGDPの6割は個人消費なのだから、一部のグローバル企業を強くし、多少輸出を増やしたところで、景気が良くなるはずがないのだ。

「この20年、アメリカのエージェントのような経済学者やエコノミストが、グローバルスタンダードだ、構造改革だと日本式の経済システムをアメリカ型に変えてきたが、果たして日本国民の利益になったのかどうか。大失敗だったのは、この20年の日本経済が証明しています。今からでも日本の状況に合った経済システムを探すべきです。今振り返っても、年功序列、終身雇用、系列といった日本型経営はある意味、合理的なシステムでした。雇用が守られるので、サラリーマンは結婚、子育て、マイホーム取得と人生設計を立てられた。将来不安が少ない分、消費もできた。ところが、グローバルスタンダードに合わせるべきだと雇用を壊し、非正規を増やしたために、将来不安が強まり、消費が増えなくなってしまった。最悪なのは、社内に人材と技術の蓄積がなくなったために、商品開発力まで落ちてしまったことです」（経済評論家・斎藤満氏）

日刊ゲンダイより

難しい時代に入りました。良くも悪くも20世紀の制度や価値観が変わろうとしています。様々な情報があふれています。その中から正しい情報、必要な情報を見極め、正しい判断、正しい選択が出来るように常に意識して進みましょう。